

地域関係者との協働によるモニタリング調査の結果について（詳細版）

1. 天神崎ビーチ

【1回目 平成 29 年 12 月 20 日に実施】

海洋生物レッドリストにおいて絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に掲載されている、エダミドリイシの主群生域を対象としている。田辺ダイビングサービスにより、平成 29 年 12 月 20 日に実施。

- ・被度：32%
- ・白化率：5 %以下
- ・感染症：なし
- ・オニヒトデ被食率：0 %
- ・特記事項：エギや釣り糸が多いが、エダミドリイシは健全。フタマタハマサンゴが白化していることを確認した。



撮影：田辺ダイビングサービス

【2回目 平成 30 年 2 月 27 日に実施】

1回目の調査終了後も水温が 15°C を下回る時期が続き、深刻な白化現象が確認されていることから、白化現象の状況を捉えるため追加調査を実施したもの。

- ・被度：25%

- ・白化率：90%（うち死亡率 20%）
- ・特記事項：調査時水温 13.7°C。例年より低水温（天神崎ビーチ最低 10.5°Cを確認）のため、大きなダメージを受けている。エダミドリイシを始め、シコロサンゴやエンタクミドリイシなど多くのサンゴの白化が見られるが、まだ生存群体が多い。前回の調査時に多く観察されたシラヒゲウニ等のウニ類は、死んだ後の殻が大量に落ちている。魚は少なく、クサフグをよく見かける。1～2月にクマノミやソラスズメダイ等は死亡。ウツボも元気が無い。アメフラシ類は多い。透明度は良い日が少ない。



撮影：田辺ダイビングサービス

2. 沖島サンマリンコーラルガーデン

【1回目 平成 29 年 12 月 22 日に実施】

卓状ミドリイシ類の高密度で大規模な群生域を対象としている。ダイビングの重要ポイントであり、高密度群集の現状と変化を捉えるのが目的となる。クシハダミドリイシ、エンタクミドリイシ、ニホンミドリイシが順に優占する。ダイビングサービスサンマリン及び潜水屋 DAIKI により、平成 29 年 12 月 22 日に実施。

- ・被度：72%
- ・白化率：5 %以下
- ・感染症：多い（5～10%程度）

- ・オニヒトデ被食率：0%
- ・特記事項：台風被害が散見された。感染症（ホワイトシンドローム）が少し目立つ。調査範囲の隣接水路部にスギノキミドリイシの小群落が認められ、本種の動向が懸念される。また、白化したサンゴイソギンチャクが多く観察された。



撮影：
環境省田辺自然保護官事務所

【2回目 平成30年2月27日に実施】

1回目の調査終了後も水温が15°Cを下回る時期が続き、深刻な白化現象が確認されていることから、白化現象の状況を捉えるため追加調査を実施したもの。

- ・被度：10%
- ・白化率：95%（うち死亡率85%）
- ・特記事項：調査時水温14°C（ここ数週間で最も高い）。浅場は壊滅的な状況であるが、水深8m程ではまだ色が薄くなる等白化現象は起きているものの持ちこたえている群体も20%程度あり。死後の藻類繁茂が急激であるためか、群体内で一部は死亡し藻類付着、一部は生きてはいるが色が薄くなっている等の現象が確認された。フクロノリが多く、群体表面を被覆してきている。



撮影：潜水屋 DAIKI

3. 沖島エトセトラコーラルガーデン

卓状ミドリイシ類の高密度で大規模な群生域を対象としている。ダイビングの重要ポイントであり、高密度群集の現状と変化を捉えるのが目的となる。エトセトラマリンクラブにより、平成 30 年 2 月 21 日に実施。

- ・被度：7 %（推定白化現象発生前被度 65%）
- ・白化率：95%（うち死亡率 90%）
- ・特記事項：調査時水温 12.1°C。大規模白化現象が発生している。既にほとんどの群体が死んでおり、藻類が繁茂している状況。よって、病気や食害が確認出来るような状態ではない。少数の健全群体は、コモンサンゴ類、キクメイシ類、ニホンミドリイシが確認できた。



撮影：エトセトラマリン

4. ニシザキサンゴ真ん中

卓状ミドリイシ類の高密度で大規模な群生域を対象としている。ダイビングの重要ポイントであり、高密度群集の現状と変化を捉えるのが目的となる。また、大規模白化現象の第一報が入った地点であることから、白化状況の発生状況を捉えることもあわせて目的とした。L-DIVEにより、平成 30 年 2 月 27 日に実施。

- ・被度：13%（白化前推定被度 85%）
- ・白化率：95%（うち死亡率 85%）
- ・特記事項：調査時水温 14.6°C（ここ数週間で最も高い）。大規模白化現象が発生。既にほとんどの群体が死んでおり、藻類が繁茂している状況。よって、病気や食害が確認出来るような状態ではない。ただし、6m 以深では色が薄くなる等白化現象は起きているものの持ちこたえている群体もあり。まだ持ちこたえている新規加入と思われる小型群体も深場で確認。少数の健全群体にはオオスリバチサンゴが多い。



撮影：L-DIVE

5. 四双島南

白浜町白浜地区沿岸域では最も卓越したニホンミドリイシ、クシハダミドリイシ、エンタクミドリイシを中心とする卓上ミドリイシ類の群生域であり、ダイビングの重要ポイントである。高密度群集の現状と変化を捉えるのが目的となる。シーマンズビーチにより、平成 30 年 3 月 13 日に実施。

- ・被度：5%（白化前推定被度 50%）
- ・白化率：100%（うち死亡率 95%）
- ・特記事項：調査時水温 13.4°C。大規模白化現象が発生。既にほとんどの群体が死んでおり、藻類が繁茂している状況。よって、病気や食害が確認出来るような状態ではない。健全群体は確認出来なかった。キクメイシ類に少数まだ生存している群体を確認。



撮影：
環境省田辺自然保護官事務所

6. 権現崎

白浜町白浜地区では有数のサンゴ群生域であり、ニホンミドリイシが優占する。田辺湾口に位置する本地点のデータは、他地点との比較上も有意義であり、当該群集の現状と変化を捉えることが目的となる。海遊提案エルマールにより、平成 30 年 3 月 14 日に実施。

- ・被度：5%（白化前推定被度 50%）
- ・白化率：100%（うち死亡率 95%）
- ・特記事項：調査時水温 13°C。大規模白化現象が発生。既にほとんどの群体が死んでおり、藻類が繁茂している状況。よって、病気や食害が確認出来るような状態ではない。健全群体は確認出来なかった。キクメイシ類に少数まだ生存している群体を確認。ウミキノコも白化していた。タカラガイ類、ナガウニ類等も死亡。ただし、魚は比較的多く観察された。アメフラシ類が多い。



撮影：
環境省田辺自然保護官事務所

7. すさみビーチ

すさみ町沿岸域では最も卓越した卓上ミドリイシ類の群生域であり、重要なダイビングポイントでもある。クシハダミドリイシが優占する。ノアすさみにより、平成 29 年 12 月 28 日に実施。

- ・被度：80%
- ・白化率：5 %以下
- ・感染症：なし
- ・オニヒトデ被食率：0 %
- ・特記事項：ゴミが絡まることで光阻害によって死亡したと思われる部分が僅かに存在する。ホワイトシンドローム等の感染症は見られなかった一方、卓の中央部が白化している群体は確認された。

(別紙 1)



撮影：
環境省田辺自然保護官事務所